

川崎市が新たな"呼び込み型"企業誘致策

臨海部・殿町3丁目の用地取得に23億円

4月の市議会臨時会で、川崎区殿町3丁目の元いすゞ工場跡地の土地約1.3ヘクタールを都市再生機構(UR)から約23億円で購入する議案が可決されました。(日本共産党は反対しました)

これは、羽田空港再拡張に伴う「神奈川口構想」の中核施設の整備で、第1段階として、「財団法人実験動物中央研究所」(現在、宮前区野川)に0.6ヘクタールを市が貸し出します。第2段階では、0.7ヘクタールを公募で借りる事業者を決めます。補助金(整備費用の1割補助)を付けて研究機関を誘致し、周辺に関係企業を集めようとする呼び込み政策です。



市が取得する川崎区殿町3丁目の土地

他都市では失敗ずみの企業誘致

阿部市長は4月7日の記者会見で、「世界中からの研究者の行き来に便利なエリアで、日本の成長戦略をけん引するような研究機関を集めたい。そうなれば、ホテルやコンベンション等の提案も自然に出てくる」と「夢」を語り、「国家プロジェクト」に積極的に乗る姿勢を表明しています。しかし、「国家プロジェクト」自体に問題があり、川崎市でも、過去にも輸入促進をめざした「FAZ事業」(コンテナターミナルの整備など)等の失敗など苦い経験があります。

川崎市より先んじて「医療産業都市構想」という先端産業の誘致を進めている神戸市でも、企業の定着は進んでいません。現在158社が進出していますが、土地を購入して定着しているのは27社で、120社が賃貸での進出で「賃料補助等の期間が終了すれば撤退する企業も増えるのでは」と言われており、すでに撤退した企業は67社にのぼります。

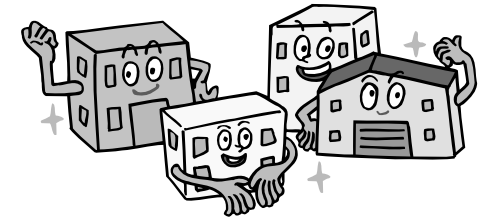


地方自治体の役割は 新たな企業の呼び込みではなく 市内の中小企業支援ではないでしょうか

川崎市内の中小企業には優れた技術が蓄えられていますが、その企業が工場の維持費にも窮する困難な実態にあります。2010年度の市の中小企業支援予算は、融資を除くと約10億円で、今回の土地購入費の2分の1以下です。

共産党は、地方自治体としてやるべきことは市内中小企業への支援強化であり、「国家プロジェクト」に踊らされた先端企業の誘致に多くの税金をつぎ込むことはやめるべきと主張しました。

共産党市議団は2010年度予算の組み替え(110億円)を提案し、その中で、工場の家賃、機械リース代等の固定経費への補助を行なうよう提案しました。

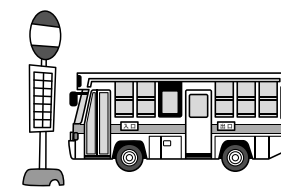


おし沼～向ヶ丘遊園駅のバス路線の新設

～今年の夏頃までに実施予定～

石川議員が議会でも取り上げてきた《おし沼～向ヶ丘遊園駅》のバス路線の整備が今年の夏頃整備されます。地元のみなさんの長年の要求が実現するものです。バス停の設置などは今後の課題として、まずはバス路線の整備を先行して行ないます。

現在、溝の口駅とおし沼を結ぶ路線は1日38便です。石川議員の質問に、交通局長は「ダイヤについては今後の検討。できるだけ38便に近く運行したい」「今後とも地域の要求を寄せていただき検討したい」と答えています。



バスの混雑改善も期待されます

今回の新設は、現在運行している《溝の口駅～おし沼》の路線の延伸という形で実施されます。朝夕のラッシュ時は、この路線のバスは、混雑が激しく、道路の渋滞と相まって、利便性の改善が求められていました。

今回、小田急線へのアクセスがしやすくなることで、混雑解消も期待されます。

要求の強い宮前平～新百合ヶ丘駅への路線新設

地域のみなさんからは向丘地区から宮前平駅、新百合ヶ丘駅へのアクセスを期待する声が出ています。向丘出張所の機能再編で戸籍の届出などの手続きが区役所に行かなければできなくなり、区役所のアクセスを含めた向丘地区の交通網の改善がより切実になっています。ひきつづき改善に向けた取り組みをすすめていきたいと思っています。

鷺沼駅に北口改札ができません

～2011年4月
供用開始の予定～

東急電鉄株から、現在の鷺沼駅改札口の反対方向に（仮称）北口改札を整備することを決定したことが、明らかにされました。

鷺沼駅は一日の乗降客が年平均6万人を超え、宮前区でも最も利用者の多い駅です。これまでも駅舎を「フタかけ構造」にし、駅前広場の拡張とともに、土橋や鷺沼3・4丁目側から利用しやすくなるよう、毎年、予算要望してきました。今回の（仮称）北口改札の整備は、その要求が実現したものです。2011年4月の供用開始に向け、工事が開始されます。



《改札口計画図》



駐輪場移設を今後検討

今後の課題は、現在ある「鷺沼駅第1駐輪場」の移設です。この駐輪場は駅近くにあることから、多くの利用があります。駅の工事は当面夜間になるので、昼間の駐輪場の利用は継続されますが、「移設場所はこれから検討」（建設局自転車対策室）とのことです。東急ストア横の自転車駐輪場の移設なども含め、鷺沼駅の駐輪場対策を根本的に見直す必要があります。

宮前平駅へのエスカレーター設置 ～東急電鉄株が「検討」



共産党市議団が新年度の予算要望でも求めている「宮前平駅へのエスカレーター設置」について、市からも「神奈川県鉄道輸送力増強促進会議」を通じて要望されていましたが、このほど東急電鉄株から「設置に向け検討を進めていく」との前向きな回答がありました。

現在はエレベーターの設置により駅のバリアフリー化がなされていますが、利用者からはエスカレーター設置の要望が出されていました。



子どもの成長・発達を見守る拠点施設 「西部地域療育センター」が平に開設

4月3日、宮前区平に新たに整備された「川崎西部地域療育センター」の開所式に参加しました。市内4カ所目の療育センターで、横浜市や横須賀市で実績のある「社会福祉法人 新生会」（飯田進理事長）が運営します。療育センターは、お子さんの成長や発達に関する相談に応じ、療育の場や情報の提供を行なうとともに、支援を必要とするお子さん（0歳～18歳）にそった療育支援を行ないます。



- ・首のすわりが遅い
- ・言葉が遅い、言葉が少ない
- ・運動発達が遅い
- ・落ち着かない
- ・聞こえが心配、など

子どもの成長・発達での心配について、専門職員に相談ができます。

利用方法は、まず電話で気軽に相談してほしいとのことです。

電話受付 平日 8:30～17:00
電話 044-865-2905

新しい施設は、たいへん明るく開放的で、とても利用しやすい雰囲気です。施設内には、施設が閉まっている土曜・日曜に地域の方も使えるよう配慮がなされており、施設運営が落ち着く夏ごろを目途に、地域利用について準備を進めるとのことです。

野川南台の急な階段に手すりが付きました



手すりが付く前



南台住宅から久末バス停に至る長く急な階段の中央部に新たに手すりが設置されました。この階段は、勾配もきつく、踏み面も狭いため、昇り降りには手すりは不可欠でした。今回の改善で、階段わきに1本設置されていた手すりに加え、中央部に手すりが設置されました。石川議員は、昨年4月に住民の方からの要望を受け、建設センターも交えた現地調査を行ないました。その中で「とくに降りるときに怖さを感じる」「階段の幅を増やしてほしい」等の要望が出され、建設センターで検討していたものです。

先日、石川議員が改善された現場を訪れた際、階段を利用している高齢者の方が「これまで手すりが1本だと他の人が使っている時は待たなければなりません。これで安心して利用できます」と評判は上々でした。階段の踏み面は、構造上上げるのは困難でしたが、今後、防犯灯の設置などにより、いっそうの安全対策の向上が期待されています。